

歯医者で働く私の、『マウスピース矯正生活』

～事務長が患者になって気づいたこと～（アライナー 21 / 36）

新たな違和感

アライナー 21 枚目。

今回も I R P が必要な回。いつもより削る箇所は多く、治療を受ける際は、あのノコギリみたいなので「ウィーン」と切削されると、なんだかソワソワする。

前歯が動く段階に入ってきて、新しいマウスピースを付けると、今までに感じたことのない「引き裂くような痛み」を少し感じるようになりました。

新しいマウスピースを装着した瞬間が特に。

実際に歯が動いている事や、I R P（歯と歯の間を削る処置）をしていることで、普段は舌が触れることのない歯の側面に舌が触れるようになり、なんとも言えない新しい感覚に違和感を覚えています。

奥歯には舌は触れないけれど、舌がよく触れる前歯が動く時期になったからこそ、この新しい感覚が顕著に感じられるようになってきました。



波及する習慣

出張で終日セミナー続きだった時、以前の経験より鞆に入れておいた洗口液が、かなり役に立ちました。

気づいて啓蒙するだけでなく、実践してすぐに有効な機会が訪れたのは、嬉しい成功体験



夏休み期間中、姉家族が帰省してきた時のこと。

最初の対面は、歯を磨いていた時でした。口の中が泡だらけのまま



「おかえりー！」

「ふあふあいまー（ただいま）」と、久しぶりの再会。

子：「帰ってすぐすること、歯磨きなの？」

私：「ご飯食べて帰ってきたからそうだよ」

子：「えー、一番最初じゃないでしょ！」

姉：「歯医者で働いてる人らしいね（笑）」



そんな会話をした後日、家族で外食をした帰りに

姉：「帰ったら、〇〇君みたく皆で一番最初に歯磨きしようね」

子どもたち：「はい！」

マウスピース矯正生活での、食後すぐ歯磨きをして再装着する何気ない習慣の出来事が、周囲に何かしら良いきっかけを与えられた気がして、帰った後も続いていることを切望中。

個性を内包する

こうして文章を書いていると、時々自己陶醉しているように思える時があります。



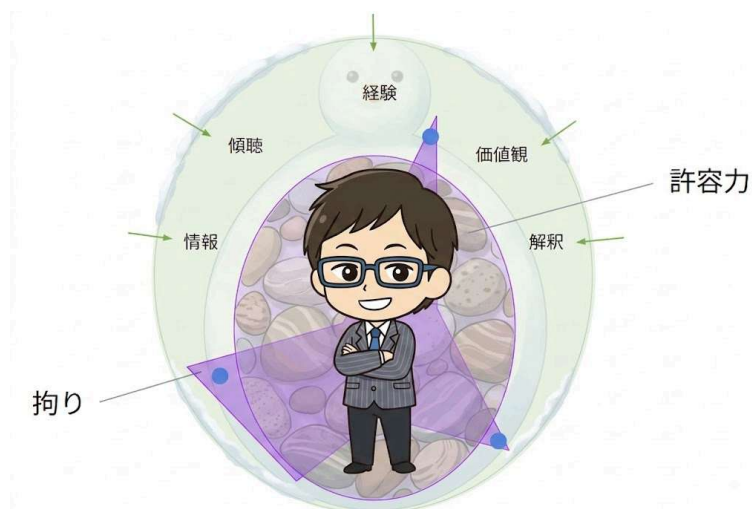
書き上げた文章を下見してもらったり、出来上がったものを自慢げに語った時、相手が「合わせてくれてるなあ」と感じてハッとして、我に返ることもあるのがリアル。

あった出来事を伝えるのは当然として、時には自分らしさを解放し、他人の目を気にせず綴るのも一興かなあと考えたりします。

最初からそれぞれが持ち合わせている拘りや個性は、不変なもの。

河原にある丸石のように上流から揉まれた結果「尖りの無いきれいな丸」になるのか。
雪だるまのように転がる内に「自分の尖りを内包した大きな丸」になるのか。

いずれにしてもきれいな球体が出来上がるわけですが、前者は個性をかき消された様式美。
個性をかき消されずに維持したとすれば、その尖りは露呈する。
後者は個性を維持しつつも周りからは尖っていると見られない球体となる。



マウスピース矯正生活やブログ執筆を通じて

これは許容力（雪だるまの芯）を受け皿に、情報、傾聴、経験、価値観、解釈といった雪原を転がって「寛容力」が拡大していくことで成り立つと思込んでいる。

物は言いよう。もちろん、後者のマインドセットでいたい。「発信元」に興味は持てなかったとしても、「発信」そのものには興味を持って自分なりに咀嚼する。一蹴して思考放棄をしない為に。

こうして、これからも雪原を転がっていく。

